

鈴木 正美 写真展

view 2.0

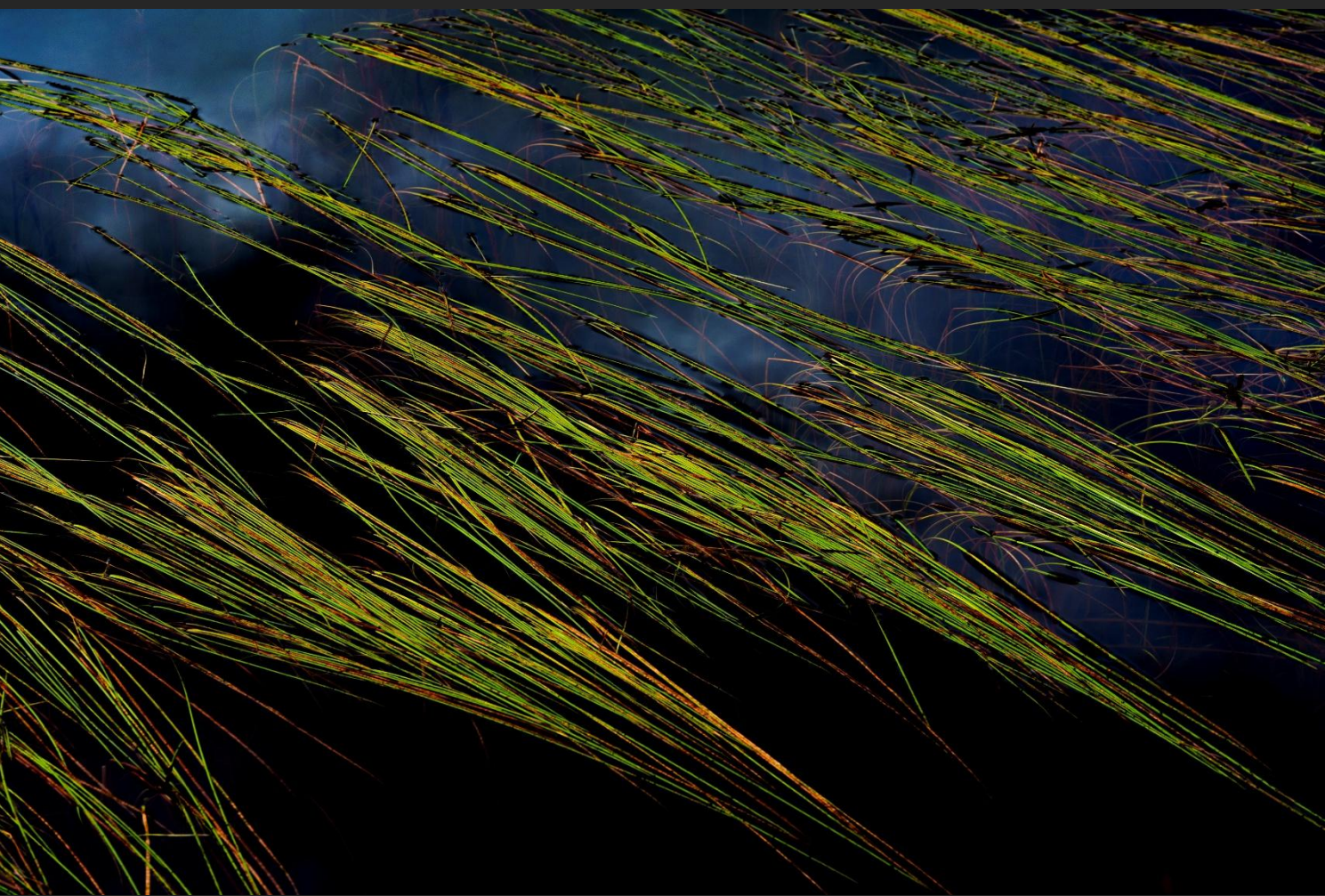
～光陰～

2026 4/29 (Wed) ~ 5/10 (Sun)

10:00~17:00 5/7 (Thu) 休館日

オーエンス八千代市民ギャラリー (第1展示室) 観覧無料

トークイベント 5/6 (Wed) 14:00~15:30 (詳細は裏面参照)



ここにすることは決して偶然ではない。

意図せずとも「今」という瞬間は必然。

短い夏。矢のようにゆく時間。

「目の前に現れるすべては美しい」

アメリカ西海岸北部の夏は短い。

2023年の夏、ベーカー山へ向かう車窓に現れたピクチャーレイク。

頂に雪をまとった山のふもとに広がる湖畔の情景に、

ふと気持ちが重なってシャッターを切った。

写真を撮影するとき、それは過去でもなく未来でもない。

「今」という刹那には、

逃げ隠れせず正面から対峙しなければならない。

そんな言葉が頭を駆け巡る。



view 2.0の由来

◆プロローグ：がむしゃらだった、あの頃の光

三島から東京へ飛び出した学生時代。僕の毎日は、驚くほど多様なバイトと写真で埋め尽くされていました。

歌舞伎町のビル管理から、肉屋や魚屋、大工、電気工事、干物工場、そして結婚式のカメラマンまで。「撮りたいものを撮るために」と必死に働いた日々は、今振り返れば、たくさんの出会いに満ちた最高に楽しい時間でした。

当時は、卒業制作のためにじっくり時間をかける余裕なんて、正直ありませんでした。

それでも、手に入れたばかりの軽自動車に10万円の軍資金を積み込んで、九州や能登半島へ向かったあのころの旅が、僕の原点です。

◆「view」の誕生：目の前の情景に、ただ委ねる

旅の途中で、ある課題にぶつかりました。「一枚一枚は悪くないけれど、これらを結びつけるタイトルはどうしよう？」

作家のようにひとつの何かを追い求めて撮りたいけれど、機材も経験も資金も足りない。自分にとって写真とは何だろう――。

答えは、富山の田んぼに差し込む夕暮れの光の中にありました。

目の前の情景に、ただ胸が熱くなる。

「そのままでもいいよ」

そう言われた気がして、ずっと気持ちが楽になったのです。

ただ目の前に現れる情景を、その時の僕にしかできない感性で切り取る。「目の前に現れる、その全ては美しい」――そんな想いから、タイトル『view』は生まれました。

◆そして「view 2.0」へ：変わらない眼差しと、新しい心

プロの道へ進み、クライアントワークでテーマを追求する日々の中でも、僕は合間を縫って「気になるもの」にシャッターを切り続けてきました。そしてどうまとめようか、学生の時と同じように悩んでいました。そんな時、恩師である小泉定弘先生から「鈴木君の卒業制作、タイトルは、、、そう！『view』だったね」と声をかけていただいた時、僕の中でその四文字が再び鮮やかに躍り出しました。

学生時代から月日は流れ、僕自身の心境も少しずつ変化しました。

何かを追い求めるのではなく、目の前にある美しさに感動してシャッターを切る。

あの頃の純粋な眼差しに、今の僕の感性を重ねて――。

今回の展示は、そんな想いを込めた『view 2.0』シリーズの一つです。



写真家 鈴木正美

撮影ジャンル：料理写真・人物

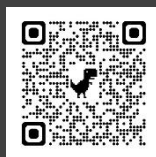
静岡県出身。日本大学芸術学部写真学科卒業後（一社）家の光協会写真部に入会。

独立後、studio orangeを主宰。好きな食べ物

は干した赤イカと赤ワイン。

（現在）

公益社団法人 日本写真家協会会員。



SNS

トークイベント

日時：2026年5月6日（水）

14時～15時30分

参加費：無料

対象：中学生以上

定員：20名(要予約)

会場：第1展示室

お問合せ先：オーエンス八千代市民ギャラリー事務室

TEL 047-406-4116

開館 9時～20時 月曜休館(祝日時は翌平日)

Gallery HP

